

中国・四国地区国立大学法人等技術職員研修

情報システム部門実習の報告

○宮田直輝^{1*}，橋本正満²，藤尾聡¹

¹鳥取大学技術部 情報システム部門 情報基盤技術分野，²情報処理技術分野

1. 概要

本学で行われた中国・四国地区国立大学法人等技術職員研修において、情報システム部門が行った実習(プログラミングの基礎と Power Automate Desktop を用いた RPA のすすめ)についての報告をするものである。

2. 実習内容

令和 4 年度 中国・四国地区国立大学法人等技術職員研修は、2022 年 8 月 24-26 日間の 3 日間で行われており、情報システム部門の実習は 25 日の午前、午後に参加者 10 名で開催した。

午前中は、プログラミングに必要な知識や基本的な書き方、実行方法などを PowerShell ISE を用いて、実際に簡単なコードを書きながら体験することでプログラミングの基礎的な体験をいただいた。

午後は、Power Automate Desktop を使って簡単な RPA(Robotic Process Automation)の作成を実習形式で行った。実習の様子を図 1 に示す。

3. おわりに

3.1. 開催準備について

前年度から実習を行うことはわかっており、準備時間は十分にあったはずだった。しかし、甘く見ていたのか動き始めたのは、研修の 2 ヶ月前ほど、午前、午後を通してほぼ 1 日の研修に必要な資料や準備も多かった。また日常的に利用していないプログラミング言語を用いる内容であったため、準備はとても困難を極めた。少なくとも準備は、開催の半年前くらいから行うべきであろうと感じた。

3.2. 実習の感想

参加者の実習部分が多くあるため、進捗に合わせて、内容を調整できるよう準備をしていたはずであった。しかし、ちょっとした操作も全員が同時に考えると、想定より大きな遅れが発生してしまった。何とかギリギリのところでは済ませることができたが、複数人による実習においては、時間配分は十分に考える必要があると感じた。

3.3. 終了後の反省点

普段に席を置いているキャンパスとは異なる場所での開催であり、その開催場所も改修工事で仮移設場所となっていたため、機材や環境において想定外なところがあって、当日は気の休まる時間がなかった。準備も含め、次回は入念な事前の調整をすべきだろうと感じた。



図 1 実習の様子

* E-mail: miyata@tottori-u.ac.jp